



福島県農業

No. **569**

題字 福島県知事 佐藤雄平



1

2012

かんしゅう■福島県農林水産部
表紙の写真■杉の林に守られて



福島県の復興に向けて

福島県知事

佐藤 雄平

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。昨年の三月十一日十四時四六分。本県は未曾有の大地震、大津波、原発事故に襲われ、風評を加えた四重苦に今も苦しめられています。この予期せぬ大震災により、無情にも犠牲になられた方々に対し、改めて哀悼の誠を捧げます。

地震や津波によって住まいを失い、あるいは原発事故からの避難を余儀なくされ、慣れない仮の住宅で不自由な思いをなさっている皆さんの御苦勞を思うと、心が痛んでなりません。新潟・福島豪雨や台風十五号の被害も重なり、本県が被った痛手は深刻です。

しかし、どんなに嵐が吹き荒れ、苦しい時が続いても、「朝の来ない夜はない」と申します。どんなに雪が深い北国にも必ず暖かい春が訪れるように、きつと前途には明るい灯りがともります。

福島県が「明るい朝」を迎えるため、本年を「復興元年」として、昨年末に策定した「福島県復興計画」に基づく県政運営に全力で取り組んでまいります。

復興計画は、本県の未来に灯りをともす羅針盤です。ふくしまを愛し、心を寄せるすべての人々の力を結集し、原子力に依存しない、安全・安心で持続的に発展可能な社会づくりを進めることにより、誇りあるふるさと再生を実現してまいります。

まず第一に、県民の皆さんが、安心して住み、暮らすことができる環境を取り戻すため、徹底した県土の除染を推進します。

また、全県民を対象とした健康管理調査を着実に進め、子どもの医療費の負担軽減を図るなど、日本一安心して子どもを産み、育てやすい環境の整備を進めてまいります。

産業の再生については、農林地の除染や低減技術の開発・活用によって、消費者・生産者双方が安心できる安全な農林水産物の生産につなげてまいります。

同時に、地域経済の担い手である中小企業が活力を取り戻せるよう、手厚い支援を行うとともに、新たな企業の誘致や再生可能エネルギーの導入拡大、関連産業の集積、さらには我が国をリードする医療関連産業の集積にも取り組み、こうした対策を通して雇用の拡大を図ってまいります。

風評被害の払しょくやインフラの復旧、確実かつ十分な原子力損害賠償にも全力を尽くし、交流の拡大や県民生活の安定にも努めます。

「福島に生まれて、福島で子どもを産んで、福島で最期を過ごす。それが私の夢なのです」。これは昨年八月、第三五回全国高等学校総合文化祭の総合開会式で披露された構成劇でのメッセージです。

明日のふくしまを担う子どもたちが、元気に、明るく、それぞれの夢に向かってはばたけるように、県民一丸となつて困難を一つ一つ克服し、美しい福島県を子どもたちに託そうではありませんか。

「何もかも失われたときにも、未来だけはまだ残っている」という言葉があります。

確かに多くのものを失いましたが、今、私たちにできることは前に向かって進むことです。子どもたちの明るい笑顔があふれる「新生ふくしま」の創造に全力で取り組むことをお誓いし、年頭のごあいさつといたします。

《も く じ》

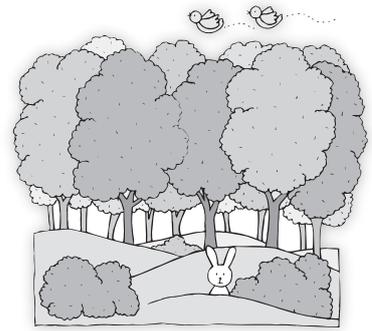
とびら	普及指導員通信……………	8
福島県の復興に向けて	木材市況・ふくしま東西南北……………	9
福島県知事 佐藤 雄平……………	みどりの少年団コーナー……………	10
新春特集 広がる森林づくり ……	公社だより……………	11
林業研究センターだより ……	森林管理署メモ……………	12
林道を訪ねて3,000kmシリーズ (第3回)	はなしのひろば……………	13
天神沢線との出会い……………		

新春特集

広がる森林づくり

未来に向かって、県民一人一人が参画する新たな森林づくりが進められています。

新年にあたり、緑豊かな森林づくりを目指して活動されている方々に今年の抱負などを伺いました。（順不同）



企業の森林づくり

株式会社東芝

CSR推進室社会貢献担当 芝 地 陽 太

東芝グループでは二〇〇五年度静岡県で東芝の森（御殿場）を開所して以来、創業一五〇周年を迎える二〇二五年までに国内外で一五〇万本規模の森林整備を行うことを目標とした「東芝グループ一五〇万本の森づくり」活動に取り組んでおり、二〇二二年一月現在国内十二都府県、海外十四ヶ国で活動を展開しています。

当社グループは自社で森林を所有していないため、主要な事業場や関係会社の所在地を候補地に、都道府県の関係部署と連携し整備を必要としている森林のご紹介を受けて、活動を行っています。

福島県では県内に所在する東芝グループ四社による協同で、二〇一〇年十月に福島市佐原に「東芝の森（福島）」を開所し、雨の合間という苗木には絶好のコンディションの下、総勢一三〇名の従業員ボランティアが集い、針葉樹（スギ・ヒノキ）一、五〇〇本の植林を行いました。二〇一一年は震災影響のため規模を縮小しての開催となりました

が、十月十五日に約三〇名が集い活動を行いました。

このように企業が森づくりのお手伝いをさせて頂くことを、林業に携わる皆さんはどのような考えでしようか。またそもそも企業はなぜ森づくりをはじめ、社会貢献活動を行うのでしょうか。東芝グループでは、このような活動を努めて行うことで二つの尊いものが得られると考えています。一つ目は「地域社会からの信頼」、そしてもう一つは「従業員の学び」です。よって東芝グループの森づくりは、地域で活躍される生産者の皆様を後押しする活動



元気に育ってね♡



雨の合間の植林活動



東芝の森（福島）

で有ること。そして活動に参加する従業員が、地域社会・そして当社グループの一員として、新たな気付きや活力を得られることが重要と考えています。

東芝グループでは、今後も末永く福島県で「森づくり」活動を行うことで、地域の自然環境、生物多様性保全、水源涵養に資すると共に、豊かな自然を次世代に届けたいと願っています。関係者の皆様、引き続きご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

※東芝グループでは自然環境保護以外の分野でも社会貢献活動を推進しています。詳細はこちらでご覧頂けます。

株式会社東芝 社会貢献活動ホームページ

<http://www.toshiba.co.jp/social/jp/index.j.htm>

企業の森林づくり

株式会社東邦銀行

当行の営業基盤である地元福島県は、尾瀬や猪苗代湖、磐梯山に代表される美しい自然に恵まれております。また、平成十九年四月

に林野庁の「森林生態系保護地域」に指定された「只見町のブナ林」は、国内最大の八三、六〇〇畝という広大な面積を有し、絶滅危惧種の希少動物が生息するなど、その存在価値は世界遺産に匹敵するものであります。

一方で、昨今では環境破壊の問題などが世界的に深刻化しており、地球温暖化対策などの様々な取り組みがなされております。翻って福島県内におきましても、これまで受け継がれてきた、美しく緑豊かな福島県の自然を未来に引き継いでいくため、自治体を中心に環境保全への取り組みが活発化しております。

こうした状況を踏まえ、当行ではCSR（企業の社会的責任）活動の一環として、県内で初めて福島県が推進する「企業の森林づくり」

り」制度を活用した「とうほうの森づくり」活動を、平成二一年度から実施しております。

この活動は、市民の皆さんが快適に散策や自然観察できる親しみやすい森林をつくることを目的に実施しているもので、これまで三年間にわたり「うつくしま未来博記念の森」（須賀川市）と「中山森林公園」（喜多方市）において計五行行ってまいりました。当行役員とその家族など延べ一、八〇〇人がボランティアで参加し、事前に立ち枯れた木などを除間伐した場所に、オオヤマザクラ、コブシ、ヤマボウシなど一〇種類以上の苗、約九〇〇本を植樹しております。

平成二二年度までの活動では、須賀川市と喜多方市あわせて延べ二・八畝の森林を整備してきましたが、この活動の効果について福島県の二酸化炭素吸収量認証制度により認証（平成二一年度七・六三〇/年、平成二二年度五・一三〇/年）をいただいております。

また、森林整備等の企業活動に加え、当行では金融商品を通じた環境保全活動にも力を入れております。福島県内の森林・湖・公園など身近な自然環境の保全活動を支援するため、お預けいただいている「東邦・エコ定期預金」の残高に応じて、福島県内の三つの環境保全団体（「清らかな湖、美しい猪苗代湖の水環境研究協議会」、「自然首都・只見応援基金」、「福島県自然公園清掃協議会」）へ寄付を行いました。

このほか、当行では地球温暖化防止に向けた取り組みとして、福島県が実施する「福島議定書」へ参

画し、全役職員が一体となってCO₂排出量や紙使用量の削減を進めるなど、環境保全活動への意識向上を図る取り組みも実施しております。

このように当行では、福島県の豊かな自然環境を守るための取り組みを積極的にこなってまいりましたが、今後も福島県ご当局ならびに林業各団体などと連携を図りながら、地域に根ざした金融機関として「ふくしま」の美しさを守り、そして次代に引き継いでいくため、森林づくりをはじめとした環境保全活動を引き続き充実させてまいります。



中山森林公園（喜多方市）



雨の中たくさんのボランティアが参加

市民参加の森林づくり

NPO法人いわきの森に親しむ会

松崎 和敬

二〇〇一年に本会を立上げてからの森林づくり活動は自然体験活動を展開するためのフィールド整備が中心で、本格的な森林づくりは五鈴の山火事跡地の再生整備にとどまっていきましたが、それでも整備の結果でてくる木材等の利用には自ら限界があり、整備面積の拡大とともに林地に放置せざるを得なくなっておりました。

森林づくりのためには、木を使う事を中心に森林の恵みを持続可能な形でいただく仕組みを作っていくことが必要ではないかと思うようになります。二〇一〇年から市民参加の森林づくり活動に着手しました。

その内容は（１）健全な森林づくりのための市民意識醸成、（２）市民参加の森林づくりネットワーク組織作りとネットワーク拠点施設の整備、（３）間伐・間伐材利用促進の三点でした。この中で、特に力を入れて取り組んだことは、木育教育と家庭用木工用品作りのための指導者育成でした。



間伐材を搬出



間伐材を利用した施設
(木育教育等で利用)

二〇一一年は大震災の關係で停滞を余儀なくされましたが、指導者育成など今後の活動のための基盤整備を行うことを重点に取組みました。

二〇一二年は原発の影響を十分に配慮しながら当初計画にそった取組みをしていきます。また、二〇一二年にはいわき市の「二一世紀の森公園」内の森林の一部について二〇一一年十二月に設定された「プロ野球の森（五ヶ所）」の整備事業が加わります。

現在、二つの事業を実現するための具体策について多くの関係者の皆さんのご協力を得ながら検討しておりますが、大震災復興のためにも何としても実現したいと思っています。

森林づくりの夢

NPO法人「みどりと花の大地学園」

理事長 岡 征四郎

平成十一年九月NPO法人設立以前から、里山の植樹や市街地の花いっぱい運動等に尽力してきたが、このたびの東日本大震災と東電第一原発事故により福島県、特に浜通り地方は壊滅的な被害を受けた。私達がホームグラウンドにしている学園の森・五台山は二〇キロ圏内にあり、立入り禁止地域。大地の森・銅屋坂

四季の郷は二〇キロ圏外ではあるがラインすれすれ上にある地域である。学園の畑は阿武隈山地の麓に近い為、ホットスポットに隣接した高線量の所にある。会員の中には、畑や家を津波で流され、地震で壊れた家から仮設住宅や親戚に家に避難している方もいる。しかし自立して

地域一体となって立ち上がらないといけない。今となつては身の丈に合った活動しか出来ないが、命ある生を受けた以上精一杯努力するしか方策はない。復旧・復興は遅々として進まないが、海岸の堤



「花いっぱい運動」(H22.6月)



「植樹祭」四季の郷 (H22.11月)

防を嵩上げ復旧し、減災の為の海岸防災林を再整備植林して、海岸道路の嵩上げをし、高台に被災家族が集団移転する。山は勿論海岸帯にも植林の機会は増加する。

我々の出番が来る。海岸道路や堤防、防災林の嵩上げには、被災した瓦礫を再利用する。この大震災を経験した世代だからこそ、次の時代に残すもの「植林事業」であり、みどり豊かな郷土にする為に町を花いっぱいにする事だと思ふ。

林業研究センターだより 県産木材に対する 放射性物質汚染の 実態把握と対策について



林産資源部

主任研究員 小川 秀樹
主任研究員 村上 香

○はじめに

現在、林業研究センターでは東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質による木材の汚染実態の把握と対策に関する試験研究に取り組んでいるところです。今回は、これまでに得られた試験結果をとりまとめましたので紹介します。

「スギ材利用のための立木の放射線量の調査について」 (首都大学東京 共同研究)

I はじめに

木材を安心して利用するため、立木全体の放射性物質の付着状況及び木材内部の汚染状況を首都大学東京と共同で調査いたしました。

II 調査方法

スギ立木の放射線量を調査するためイメージングプレート(※1 以下「IP」)を用いた放射性物質の二次元分布の解析及びサーベイメータ(※2)に

よる放射線量の簡易的な測定を実施しました。

III 調査対象木

当研究センター内のスギ林(二〇年生、北西斜面)において、林縁から一五メートル以内側のスギ立木(樹高二メートル 胸高直径一三センチメートル)を一本伐採し、枝葉や材、樹皮等の部位を採取しました(八月三日伐採実施)。なお、伐採時の林内の空間線量は〇・八六マイクロシーベルト(地上高一メートル〇×一〇マイクロロット四隅)。

IV 調査結果及び考察

(一) 枝葉の放射線量調査
図1は採取した枝葉(北面)の表面に直接スペクトルサーベイメータ(※2)に

部位	採取方法	サンプル数
枝・葉	立木北面の枝葉を、高さ方向に0.5m間隔で採取	21
材・樹皮	樹皮付きの円盤を、高さ方向に4.2m間隔で採取	5

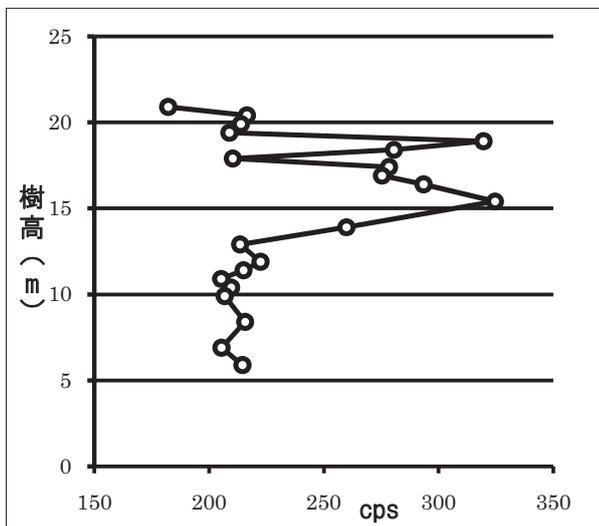
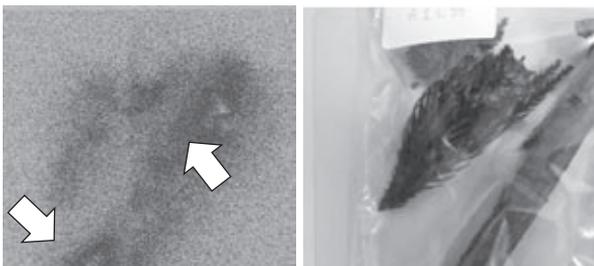


図1 サーベイメータによるスギ立木の放射線量測定



(高さ15m付近の枝葉、露光時間6時間、矢印に強い反応)
図2 枝葉のIPによる解析画像

を当てて放射線量を測定した結果ですが、先端部分を除く樹冠の上半分で線量が特に高くなる傾向がありました。また、図2は枝葉をIPで解析した結果ですが、葉に比べると枝や球果に強い反応が現れました。これは表面の凹凸等の違いによるものと思われます。(二) 樹皮及び材の放射線量調査
図3は表面線量計(※2)を用いて樹皮を方位別、樹高別に測定した結果です。方位別では北西方面で高い放射線量が確認されました。これは事故後に放射性物質が降り注いだ向きによるものと考えられます。樹高別では先端部と樹冠下の部分の線量が高くなる傾向が確認されました。

(露光三日間)。ただ、非常に低濃度の放射性物質に対してはIPが感知できない可能性もあることから、現在IPの感度について検討を行っているところです。
V まとめ
サーベイメータの測定により、一本の立木でも高さや方位・部位で放射線量が大きく異なることが確認されました。
また、材内部ではIPで感知できないような汚染は確認されなかったことから、木材として利用することは今のところ問題ないと考えられます。今後は材内部の低濃度汚染の有無や、土壌や樹皮・枝葉から材への放射性物質の将来的な移行について、継続的に調査を進めたいと考えております。
※1 イメージングプレート(IP)
※2 試料を破壊することなく内部に含まれる放射性物質の分布を見ることが出来るプレート。これに

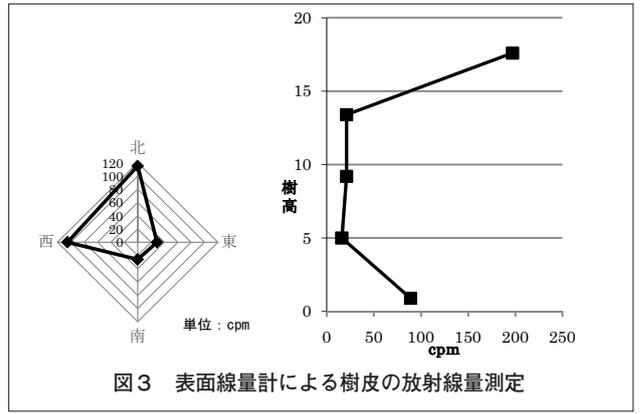
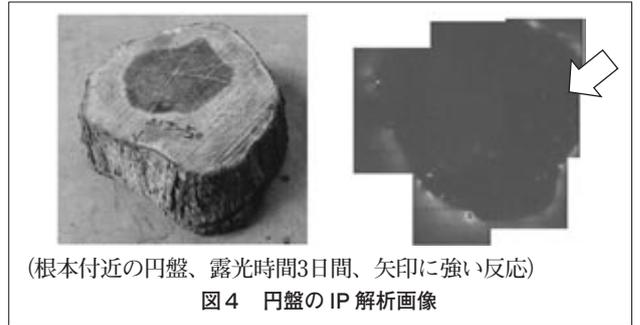


図3 表面線量計による樹皮の放射線量測定



(根本付近の円盤、露光時間3日間、矢印に強い反応)

II 表面線量計による放射線量の測定について
表面線量計(GM計数管式サーベイメータ)による測定では、数値は「cpm」という単位で表されます。これは「Count Per minute」の略であり、検出器に一分間あたりどれだけ放射線があつたかを

理前は平均三、五三〇cpm、②ブロー後は平均三、一一〇cpm(約一一・九割の減)、③樹皮剥離後は平均二九〇cpm(約九九・二割の減)となりました。今回の試験結果からは、三月十一日以前から屋外で保管し、同程度に汚染された丸太に関しては、ブローでは多く取り除けないような状態で放射性物質が樹皮に付着していると思われる、放射線量の低減には樹皮の剥離が有効であると考えます。

IV 製材品の線量低減方法の検討

試験体は当センター内において三月十一日以前から屋外で保管していた正角材(一〇×一〇×二、〇〇二ミリ)とし、保管時に上部だった面を測定面としました。プレーナーにより測定面を切削、切削厚毎に測定面に設けた八測点について表面線量を測定しました。なお、ここで示す切削厚とはプレーナーの設定値によるものです。

六二cpm、切削厚〇・五ミリで、この削りムラはほぼ解消され、平均六二cpm(約九八・〇割の減)となりました。今回の試験結果からは、三月十一日以前に加工し、屋外で保管していた製材品に関しては、材の表面に放射性物質が付着していると思われる、表面を切削することにより放射線量を低減させることができると考えます。

○おわりに
東日本大震災及び東京電力の原発事故を受けて、当センターでの従来研究の多くは縮小か休止となり、ほとんどの研究員が震災復興及び放射線関連の調査やモニタリングに従事しております。

放射性物質の木材への影響については、まだ全容が見えないところではありますが、福島の復興のため、継続的に調査を行って参りたいと思っております。今後ともご協力ご支援宜しくお願いいたします。

試験結果は図6のとおりです。切削厚による表面線量の減少傾向については測点毎に違いがあります

放射線物質が含まれる試料をのせ、数時間から数日間露光させた後に、レーザー光線を照射すると放射性物質の二次元的分布が現れる。露光時間が長ければ長いほどIPの感度は上昇する。

※2 サイベイメータ
放射線線量等を測定するための小型の放射線測定器。今回使用したものは以下の二機種。
○スペクトルサーベイメータ・BNC社製SAM940は、NaI(Tl)シンチクリスタル検出器により、放射線(γ線)のエネルギー分布を測定することができるので、放射性核種(Ir-131, Cs-137等)の特定も可能。線量の単位はcps。
○表面線量計・ALOKA社製TGS146Bは、GM管検出器により、放射線(β線)を検出することが可能。製品等の表面汚染測定に利用される。線量の単位はcpm。

丸太・製材品の放射線量の低減方法について

I 目的

木材への風評被害の防止や安心・安全な県産材の供給を図るため、丸太や製材品の放射線量を測定し、その低減方法の検討を行いました。

示しています。また、今回結果として示す数値はすべて実測値からバックグラウンド値を除いたものです。バックグラウンド値とは、測定場所の空間の放射線を表面線量計で測った数値であり、測定対象物以外からの放射線の数値を意味します。さらに、測定方法は「JIS放射性表面汚染の測定方法―β線放出核種及びα線放出核種」の直接測定法に準じて実施しました。

III 丸太の線量低減方法の検討

試験体は当センター内(郡山市安積町)において三月十一日以前から屋外で保管していたスギ丸太とし、①処理前 ②コンプレッサによるブロー ③樹皮の剥離の各工程毎に、丸太の表面に設定した五測点について表面線量を測定しました。

試験結果は図5のとおりです。①処

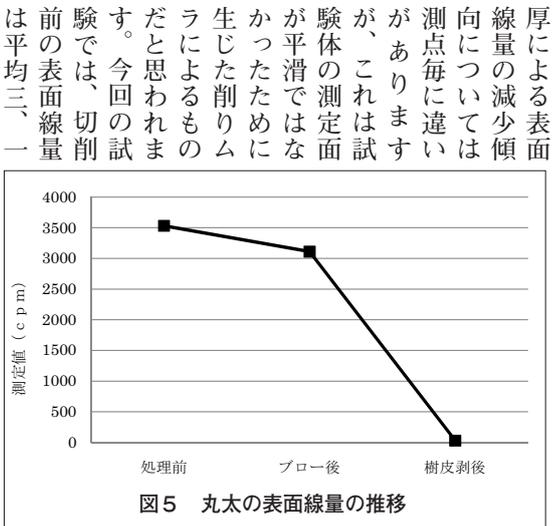


図5 丸太の表面線量の推移

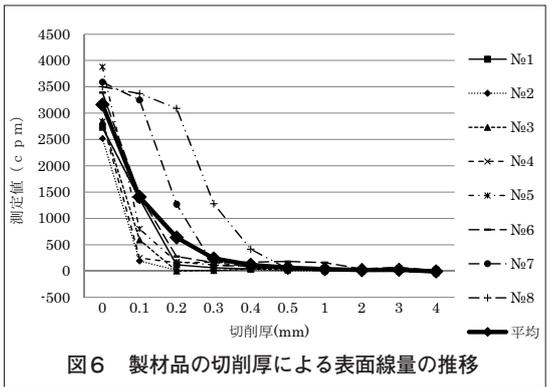


図6 製材品の切削厚による表面線量の推移



林道を訪ねて3,000kmシリーズ（第3回）

天神沢線との出会い

技術士 中村多伸

路線名	天神沢	幅員	7.0m	延長	3,827m
市町村名	東白川郡矢祭町関岡				
開設年度	平成8年～14年	事業名	ふるさと林道緊急整備事業		

1. 天神沢線との出会い

- ① 当該路線とは、昭和40年頃で、失対事業で林道も開設して、直営で材料や燃料等を購入したり、現場監督や労使交渉もしていた頃の出会になる。今では「天神沢支線」と変更されているが、その頃から、内川集落と繋がる林道はできないものかと、夢のようなことを考えていた。この内川集落は、市街地とトライアングルの位置にあり、林道を作ることによって生活道としての機能が上がり、区域以内のスギの美林も用材として評価が高くなると考えた。
- ② その後30年が経過して、ふるさと林道が創設され若い時に考えていた構想を、当時の根本町長に、話題提供をしたらとっさに飛びつかれ、新幹線並みのスピードで実施された路線として思い出される。
- ③ 若いときの構想は、夢であろうができるだけ大きく抱き、いつか実現する機会を待つことも楽しいものである。



間伐材を利用した排水溝

2. 現地の状況

- ① 二車線の林道は、杉林内を貫通し、素晴らしい林道として地域から歓迎され、親しまれていると感ずるように、良好な維持管理がされ、多くの車両が往来していた。
- ② 人々に利活用されている施設には、入口の感じで大体わかるもので、林道の場合は、起点の標柱や路側の草刈りの有無で判断できる。
- ③ 林道には、目的に応じて作設されるので、施業道のような専ら施業に利用されるものは、施業の時期との関連で管理すれば良いが維持管理費の節減も視野に入れることが必要である。

3. 技術的な課題とその現状等

- ① 線形の決定には相当の課題があったことは承知しているが、大面積の掘削と法面崩壊を誘引した経過等を見ると、林道という概念が、ふるさと林道という事業によって拡大解釈され、道路法の道路と同格のものが受け入れられたことが悔やまれる。
 - ② 崩壊した法面は安定し、大掘削断面も風化等の問題以外は認められないが、この区間に費やした費用や工事期間を考えると、しばし止まって眺める時間が長かった。
 - ③ 法面に利用した間伐材はその効果が認められるので、所期の目的が果たせるのか。追跡調査をしてほしいと思う。
 - ④ 木柵排水溝は、所期の目的が果たされているが、腐植しているものも認められる。
 - ⑤ トンネルの勾配は、積雪地帯でないことを考慮しても緩和してほしかった。費用的な問題が提起されていたが、ほとんど変わらないものでなかったかと推察される。



法面崩壊箇所が（左側）、完全に復元して安定している。起点側から約500m付近

..ひとり言..

技術士の挑戦は、退職を間近に控えた58才の秋のことでした。私自身現役の時から、上司や先輩から誘いは受けていましたが、高嶺の花で、とてもじゃないが受かるはずがないと思っていましたが単純に考えました。詳細は省きますが、何でも挑戦してみることです。宝くじだって買わなくちゃ当たらないのです。頑張ってみましょう。

「ドイツ・フォレスター研修会」に参加して

■県中農林事務所
林業普及指導員 木村 憲一郎

国は平成25年度より森林・林業再生プラン実現の牽引役となる「日本型フォレスター」の認定を始めるとしてありますが、これに関連して全国11箇所で試行的なフォレスターの活動が展開され、当事務所では田村市において普及指導員3名が森林整備計画の策定指導等に取り組んでいます。こうした中、岐阜県でドイツ・フォレスターによる現地研修会が開催され、幸いにも参加する機会をいただきましたのでその内容の一部をご報告します。

この研修は岐阜県の主催によるもので、平成23年10月24日からの5日間、高山市内の県有林を会場に、岐阜県や同県内の森林組合職員など約30名が間伐や作業道づくりなどの技術指導を受けました。講師はカール・コルプ氏とミヒャエル・ランゲ氏のお二人で、ともに州の公務員として森林の監視、施業計画の立案などに携わり、担当区の森林なら誰よりも知るだけでなく、住民からの信頼も厚いとのことでした。

研修を通じて私が特に印象に残ったのは将来木施業と欧州型道づくり。将来木施業とは1ha当たり100～200本のバイタリティーのある木を「将来の木」として残し、その木の周囲にある2番目に成長の良い木を伐採・収穫する方法で、将来木とそれ以外の多様な大きさの木が混交する森林を目指した間伐方法です。一方、欧州型道づくりとは、横断勾配を屋根型とし徹底的に盛土を転圧し、決して雨水を路体内に染み込ませない構造であり、法高は極力低く、法勾配は極力緩くするなど施業のし易さや動植物への影響を最小限に抑えた工法です。ドイツでは伐期が来るまで数年おきに将来木施業が行われますが、その間大雨で道が壊れることは無く、太径木を中心とした搬出間伐となるため十分な収益が所有者に還元されるとのこと。ドイツ・フォレスターはこれらを理論的にかつ参加者が納得するまで丁寧に説明されました。

日本とドイツは森林の多様性、雨量、補助制度など、そのどれもが異なっており研修で学んだことをそのまま本県に適用することは難しいと考えられます。しかし「将来性、合理性、環境への配慮」を最優先に掲げ、技術と経験により培った信念のもと、自分の考えを現場に徹底させ住民の信頼を勝ち得たドイツ・フォレスターの姿勢には見習うべき点が多いと感じました。これを我が身に置き換えてみれば経験不足、力不足に猛省。地域に信頼される普及指導員として技術の習得はもちろん、人間性をも磨かなければいけないと痛感しました。まずは市町村森林整備計画と森林経営計画を市町村・事業体の皆様とともに着実に仕上げていきたいと思えます。

結びに、このような研修を企画実行された岐阜県の皆様のご努力に敬意を表しますとともに、快く研修に参加させていただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。



コルプ氏による将来木の選木指導



ランゲ氏による排水施設の設置指導



素材の価格〈工場着価格〉(10月15日現在)

(単位: m³当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	9 (8~9)	1	(0~0)	0	9 (9~9)	0	9 (8~9)	1
		10~13		並	スギ	11 (11~12)	0	9 (7~11)	0	12 (12~12)	1	11 (7~12)	1
	中	14~18	3.00	並	スギ	13 (13~13)	1	11 (10~11)	1	12 (10~13)	1	12 (10~13)	1
				並	ヒノキ	19 (15~24)	0	(0~0)	0	17 (17~17)	0	18 (15~24)	0
		6.00	並	スギ	19 (16~24)	△1	(0~0)	0	15 (14~16)	0	17 (14~24)	△1	
			並	ヒノキ	24 (24~24)	0	(0~0)	0	20 (15~26)	0	22 (15~26)	0	
	20~28	3.65	並	スギ	13 (13~14)	0	12 (12~13)	0	13 (12~14)	1	13 (12~14)	0	
		4.00	並	アカマツ	11 (9~13)	1	13 (13~13)	-	10 (9~10)	1	11 (9~13)	1	
		1.80	並	アカマツ	8 (5~10)	1	(9~9)	0	9 (9~9)	0	8 (5~10)	0	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	23 (23~23)	0	(0~0)	0	24 (24~24)	0	24 (23~24)	0
並				米マツ	26 (24~28)	0	26 (26~26)	0	24 (22~25)	0	25 (22~28)	0	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	23 (23~23)	0	23 (23~23)	0	
			並	ベニマツ	27 (27~27)	0	(0~0)	0	23 (23~23)	0	25 (23~27)	0	
70~90		8~14	並	ラワン	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
			並	アガチス	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
パルプ用材	-	-	並	マツ	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
			並	広葉樹	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	

九月の原木市場への入荷状況は、前月比五五割増(前年比三二割減)の二三、二九八立方メートルとなっている。販売量については、前月比四六割増(前年比五割減)の二三、二八六立方メートルとなっている。年明けの取扱量は前年比増で推移していたが、震災以降は取扱量が落ち込み、平成二三年一〜九月の取扱量は前年比で入荷量六割減、出荷量六割減となっている。十月の価格については、引き続き強気配である。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(9~10)	0	9 (8~9)	0
	13~14		並	カラマツ	9 (8~9)	0	8 (7~9)	0
	16以上		並	カラマツ	10 (10~11)	0	11 (10~11)	0

注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
2. ()内は各地域の価格幅、()外は各地域の平均価格を示す。
3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。

「プロ野球の森」は、平成二二年から同機構が地球温暖化防止活動「NPB Green Baseball Project」の一環として実施しているもので、今まで宮崎県、新潟県、北海道で設定されており、今回、東日本大震災で未曾有の被害を受けた東北地方の復興支援を目的に福島県に設定されました。今後は、宮城県や岩手県でも「プロ野球の森」を設定することが進められています。

また、この記念植樹式と併せて、団団法人日本プロ野球選手会主催による

平成二三年十二月四日(日)、いわき市のいわきグリーンスタジアムで団団法人日本野球機構による「プロ野球の森」国際森林年記念植樹式が開催されました。記念植樹式には、日本プロ野球選手会井端選手会理事長(中日ドラゴンズ)、渡辺いわき市長、地元少年野球団の代表ほか関係者が出席し、バットの原料となるアオダモ三本を植樹しました。「プロ野球の森」は、「二世紀の森公園」自然冒険ゾーン内に設定され、市民参加による森林整備を進めることとなっており、NPO法人いわきの森に親しむ会がその支援を行うこととなっています。

「プロ野球の森」は、平成二二年から同機構が地球温暖化防止活動「NPB Green Baseball Project」の一環として実施しているもので、今まで宮崎県、新潟県、北海道で設定されており、今回、東日本大震災で未曾有の被害を受けた東北地方の復興支援を目的に福島県に設定されました。今後は、宮城県や岩手県でも「プロ野球の森」を設定することが進められています。



「プロ野球の森」国際森林年記念植樹式

いわき農林事務所森林林業部 樋田和美
林業課主査



「プロ野球の森」での記念撮影

「ベースボール・クリスマス2011」いわき」が開催されました。県内の小中学校の野球部など二五〇チームや親子連れなど約五、〇〇〇人が集まり、子ども達は阪神タイガースの新井選手や読売巨人軍の藤村選手ら現役選手十一人とキャッチボールやゲームなどの多彩なイベントにより憧れの選手との交流を楽しんでいました。

「避難された皆さまに 緑の潤いを」 花壇セット贈呈式が行われました

みどりの少年団コーナー
No.183



(写真1) 花壇セット

今年の春季緑の募金は、三月十一日に発生した東日本大震災により活動を自粛いたしました。地震・津波や原発の事故により現在も多くの皆さまが避難生活を余儀なくされています。

緑化推進委員会としては、このような避難された方々の心が癒され、緑豊かな美しいふくしまを取り戻せるよう、花壇セット（プランター、間伐材製枠、培土、花苗、球根）（写真1）をお贈りするため、秋季募金を実施しました。



(写真2) 贈呈式

厳しい状況の中での活動ではありませんでしたが、県民の皆さまの大きな善意と関係団体からの支援をいただき、仮設住宅等にお住まいの方々からのご要望にお答えすることができました。

花壇セットの贈呈は福島植物園のご協力により、十一月十六日からスタートし、これまでに約六千の花壇セットをお贈りすることができました。

贈呈の初日となる、十一月十六日には一六〇戸が入居されている福島市北幹線第一仮設住宅において、多



(写真3) 福島市北幹線第一仮設住宅にて（贈呈の初日）

くの入居者の参加をいただいで贈呈式を行い、福島県緑化推進委員会齋藤理事長の挨拶のあと、理事長から「花壇セット」を贈呈し、その後、福島植物園のご協力により参加された皆さまに、栽培・管理の指導を行いました。（写真2・3）

寒い冬ではありませんが、「花と緑」によって仮設住宅に避難されている皆さまに、少しでも心の安らぎをお届けできれば幸いです。

皆さまのご協力大変ありがとうございます。

公社だより

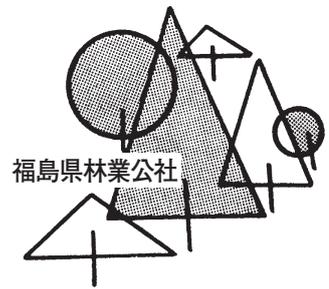
森林の 除染作業試験

一般の福島第一原子力発電所の事故により、県内の森林に放射能汚染が広まっており、居住地の空間線量低減のために、また今後の森林施業のためにも、放射能の高い地域の除染作業が必要となってきました。

しかし、これまで森林除染の例が少ないため、除染作業の手法が課題となっています。

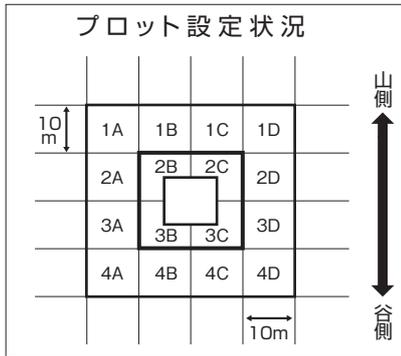
そのため、森林内の落葉層の除去や、樹木等の伐採除去による放射線量減少の調査を行い、森林除染の効果を評価することを目的とし、林業公社では林業研究センターと共同で十一月月上旬から森林の除染作業試験を行っています。

調査場所は放射線量の高い川俣町山木屋地区の森林で、広葉樹林とスギ林それぞれにおいて①落葉層除去、②三〇割間伐、③五〇割間伐、



④皆伐を行い、その前後で放射線量を測定し、作業の効果を検証するというものです。

具体的な調査方法は、一〇割×一〇割のプロットを十六箇所(四〇割×四〇割)設定し、落葉層除去については、①一〇割×一〇割の枠内、②二〇割×二〇割の枠内、③四〇割×四〇割の枠内で、間伐、皆伐については①二〇割×二〇割の枠内、②四〇割×四〇割の枠内で中心の線量



落葉層除去前



落葉層除去作業風景



落葉層除去後

率を計測(それぞれ地面から〇・一割、〇・五割、一割の高さ)し、作業前の線量率と比較するというもので、線量率の減少状況によってはさらに枠を拡げて調査することとしており、除染の方法や範囲が変わることによっての効果が違いを調査するというものです。

林業公社は公社造林地(土地所有者は川俣町)を調査場所として提供するとともに、プロットの設定やプロット内の立木の毎木調査(胸高直径、樹高、本数)等を林業研究センターと共同で行いました。

今年には放射能の影響を考慮して、林業祭での松ぼっくりの絵付けや平成十九年から行ってきました幼稚園・小学校・福祉施設等へのスギ間伐材のクリスマスツリープレゼントを中止いたしました。とりわけ間伐材のクリスマスツリープレゼントにつきましては、「今年はクリスマスツリーのプレゼントやらないんですか?」という問い合わせが数多くあり、「次世代の森林づくりを担う子どもたちに『森林を慈しむ心』の育成を図る」という当公社の試みが浸透してきたことを実感するとともに、プレゼントを楽しみにしていたいただいた方々の気持ちにお応えできないことが残念でなりません。少しでも早く森林の安全を取り戻し、森の恵み、森林の大切さをPRできるようにしていきたいと考えております。

森林管理署メロ

南会津からの便り



●管内の状況

南会津支署は、只見町、南会津町、檜枝岐村にまたがり、国有林面積約一〇万九千鈔を管理しています。管内は、湿原で有名な尾瀬（写真1）、日本有数のオサバグサの大群落がみられる帝釈山のほか、ブナ・オオシラビソの天然林が多く見られる自然豊かな地域です。

多雪地帯で急峻な地形が多いことから、人工林率が六割と非常に低く雪起こしが必要、スギのほとんどが



（写真1）尾瀬

根曲がりとなることもあり、林業にはあまり向いていない地域といえます。ブナ等の広葉樹がふんだんにあることから、かつてはその資源を生かして、椀などの漆器の素地や杓子等の木工品生産が盛んに行われてきました。自然保護の機運の高まりから、平成十八年にその大部分を森林生態系保護地域に指定し、貴重な自然を維持していく方向にシフトしたところ。このほか、ゼンマイ・ウドなどの山菜・キノコ類が豊富に採れるため、昔から地元住民に利用されてきました。支署管内の国有林は、地元と共用林野契約を締結しており、これは、林野巡視や山火事対応、情報提供等の役割を担っていただく代わりに特用林産物の採取権を付与する契約ですが、他地域の方々におかれは、無断採取しないようご注意願います。

最近では、中国産の安価な山菜が市場に出回っていることや、採取者の高齢化により山に入る者が少なくなっていることが、例えば民宿の食事に採られた山の幸を出してお客様に喜んでもらうなど、地域振興に一役買っている面もあります。

●七月豪雨災害について

平成二三年七月新潟・福島豪雨により、支署管内でも局所的に大きな被害を受けました。川沿いの林道については、増水に伴う

渓岸侵食により、いたるところで、路体流出や路肩崩壊（写真2）が生じたほか、道路敷が川になったところもあります。「雨垂れ石をうがつ」という、ことわざもあります。巨石をも押し流し（写真3・4）、橋梁等の構造物を



（写真2）路体流出

破壊する水のエネルギーについて、改めて畏敬の念を感じました。思えば、東日本大震災に伴う津波の破壊力も想像を超えたものがありました。路網整備にあたっては、水を一箇所に集中させずに分散処理をすることが言われておりますが、十分注意したいと思えます。

●今後の国有林のあり方について

昨年十二月に林政審議会において、「今後の国有林野の管理経営のあり方について」という答申が出されました。自身は、一言で言えば、民有林や地域の関係者とのより一層の連携を図り、地域に貢献していくこととなっております。現在、災害復興、除染問題等々さまざまな課題がありますが、森林管理署においても微力ながら貢献できればと考えております。



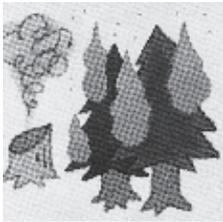
（写真3）磨耗した天端部



（写真4）巨岩が横たわる

備えのパートナー 森林 国営 保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



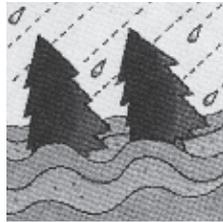
1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



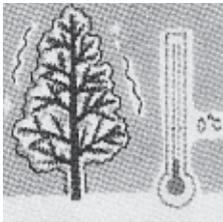
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

- ◆ 県内各森林組合
- ◆ 福島県森林組合連合会

又は 県庁森林保全課
TEL 024-521-7441

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追及したプロセッサ

- 高耐久性を追及したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒969-1149 福島県本宮市本宮万世11-7
TEL 0243-34-5440 FAX 0243-34-5442

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

野生動物から大切な植栽木を守る

ツリーセーブ
ヤシマレント

蝨さされ防止

ハチノックL (農道用)
ハチノックS (携帯用)

**大切な日本の松を守る
ヤマの林業薬剤**

ヤシマスマイバイン乳剤
ヤシマスマイバインMC
グリーンガードエイト
パークサイドF
ヤシマNCS
モリエートSC
マツグリーン液剤2

くん蒸用生分解性シート

ちゆらシート (茶・白)
NCSシート (透明)
与作シート (茶・白)
(折りたたみ式
専用キャリーバック使用)



住化グリーン株式会社

本社 〒104-0032 東京都中央区八丁堀4丁目5番4号 TEL.03-3523-8070 FAX.03-3523-8071
東北営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目10番3号 泉セントラルビル202号室 TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

排気量 **18.3cm³**
世界最小・最軽量、2.2kgの手のひらサイズ



G2000T 

20cm(8インチ)・SP ¥66,675(税込)
20cm(8インチ)・CV ¥72,765(税込)

排気量 **40.1cm³**
さまざまな用途に対応、本格プロ仕様シリーズ



G4211EZ 

40cm(16インチ)・SP ¥135,660(税込)
45cm(18インチ)・SP ¥137,865(税込)
40cm(16インチ)・H ¥135,660(税込)
45cm(18インチ)・H ¥137,865(税込)

使いやすさを
追求したハンドルと
思いのアクセルワークが
可能なトリガーレバー。



BC2711DW1-EZ

・防振ハンドルブラケット
・トリガーレバータイプ
チップソー ¥79,380 (税込)
笹刈刃 ¥78,330 (税込)

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店

(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1